

一般社団法人 日本生態学会
平成 28 年度第 3 回通常理事会議事録

1. 日時：2016 年 12 月 17 日（土）13:00～17:00
2. 場所：首都大学東京 秋葉原サテライトキャンパス会議室 B
3. 出席者：
 - ・理事会構成員（20 名・定足数 10 名以上）
（理事）可知直毅、岡部貴美子、石井励一郎、池田浩明、占部城太郎、久米篤、古賀庸憲、吉田丈人、日浦勉、大澤剛士、辻和希、佐竹暁子 (Skype)、湯本貴和、川北篤、別宮有紀子、吉田正人（全理事中 16 名参加）
（欠席理事）長谷川雅美、鈴木まほろ、宮下直、近藤倫生
 - ・監事：陶山佳久、竹中明夫
 - ・オブザーバー：中野伸一、陀安一郎、木庭啓介、北村俊平、伊東明
 - ・事務局：鈴木晶子、橋口陽子
4. 議事概要：

定足数 10 名を超える 16 名の理事の出席を得て理事会が成立したことを確認した後、定款第 42 条に従い可知直毅会長を議長として議事を進行した。議事録署名者は、定款第 46 条に則り、可知直毅会長、陶山佳久監事、竹中明夫監事とし、議事録作成者は岡部貴美子理事が担当する。

報告事項

1. 事務局報告（庶務・会計）
 - ・資料 1 に基づいて岡部専務理事より報告があった。
 - ・大会運営委託費（初期）の支出が予算より少ないが、来年の支出になるとの報告があった。
2. Ecological Research 編集委員会報告
 - ・資料 2 に基づいて久米編集長より報告があった。
 - ・今年の総ページ数は 1,000 頁を下回った。これは 2015 年の採択率が 17% だったこと、データペーパーの掲載が増えたがデータペーパーは 1 ページのみのため。
 - ・来年は 4 つの特集が出る予定（来年以降はページ数は大幅に増える見込み）
3. 日本生態学会誌編集委員会報告
 - ・資料 3 に基づいて古賀編集長より報告があった。昨年特集の投稿が多く今年の総ページ数が多くなった。今後保全誌でも大会で発表されたものへの特集打診をしているためページ数は少なくなる見込み。

4. 保全生態学研究編集委員会報告

- ・ 資料 4 に基づいて岡部専務理事より報告があった

5. 学術会議活動報告

- ・ 吉田丈人理事より報告があった。
- ・ マスタープラン（京大生態研提案）は、大型研究には入ったが、重点大型研究には入れなかった。生命科学の中で生態学が孤立しているのではないかと危惧があるとの報告があった。
- ・ 来期の会員・連携会員について学会宛に情報提供依頼があった。
- ・ 来年度から科研費の審査制度が改革される。会員に広く知ってもらうほうがよい。総会を 30 分延長するなどして、会員に広く科研費改革の内容を紹介できないかとの提案があった。

6. 大会準備状況報告

- ・ 資料 6 に基づいて川北理事より報告があった。
- ・ 懇親会参加者が少ないので積極的な参加呼び掛けをお願いしたい。
- ・ 仙台大会に比べてシンポジウム数が多くなった。
- ・ 新入会員への対応に不備があり大会発表メ切的延長を行った。結果的には 100 名以上の追加登録があった。
- ・ ジュニア生態学講座、こども生態学講座も行う。

7. 各種委員会報告

<自然保護専門委員会>

- ・ 吉田理事より資料に基づいて亀岡市京都スタジアムの整備計画について京都府知事と亀岡市長に意見書を提出した旨の報告があった。

<大規模長期生態学専門委員会>

- ・ 日浦理事より報告があった。10 月頭に ILTER の会合。DEIMS（世界のフィールド情報サイト）に情報を公開していないと ILTER に登録されない。JaLTER で情報登録されていないところがあるので登録を進める。11 月に北浦サイトでの環境に関する研究集会を行う。

8. 学会賞選考委員会報告

- ・ 日浦理事より報告があった。
- ・ 今回、宮地賞 4 件、大島賞 2 件、奨励（鈴木）賞 3 件。生態学会賞には推薦がなかった。大島賞の位置づけがよくわからないという意見があった。規則に中堅対象と書いてあるがどこまでが中堅か？中堅会員をどのくらいにするかの検討依頼があった。

- ・ 理事会後、執行部より「学会賞選考委員に諮問して、「中堅」「例えば」をはずすことが妥当か検討していただき、次期理事会で諮りたい。」との意見があった

9. 学会業務委託の進捗

- ・ 資料7に基づいて池田理事より報告があった。財政改革については、次回の理事会で骨子案を提案する。

10. 大会のあり方検討について

- ・ 吉田丈人理事より資料8に基づいて報告と提案があった。
- ・ 大会改革を当初予定から1年延期し、近畿大会で実施することが承認された。
- ・ 重複発表を認めると、プログラム編成の作業がたいへんになる。企画委員会の業務軽減という方向性から外れるのではないか。
- ・ 重複発表に課金するのではあまり抑制にならないのでは？
⇒重複を認めるが相応の費用負担を求める、そのうえである程度の制約が必要なのではないかとの意見があった。
- ・ 非会員の発表1回目は無料、2回目で会員にというのはシステムの可能なのか？システムの検討からしていくのが良いのではないかとの意見があった。
⇒まず国際文献社にシステムの可能なかどうか打診する。
- ・ 大会参加費徴収についてはあまり問題ないのではないかとの意見があった。
1日参加については、当日参加の受付のみにしたらよいのでは。
- ・ 辻理事より登録を遅れた人のポスター発表スペース確保も検討してほしいとの意見があった。
- ・ 東京大会のフォーラムで「自由集会は必要か？」というテーマで議論する。
- ・ これまで自由集会で講演依頼をしていた人が、重複発表の制限から講演を依頼しにくくなるのではとの意見があった。
- ・ この件は理事会承認事項、来年の今頃には方向を決める必要がある。
- ・ 学生・PDが積極的にシンポ企画できるようにすることも考慮する必要があるとの意見があった。
- ・ 聴講学部生の参加費無料、高校生ポスター発表など生態学の裾野を広げる活動もしているので、学生・職のない方が積極的に参加できるように考えてほしい。→次回のアンケート結果をクロス集計し、意向を分析する。
- ・ 占部副会長より大会の会員へのサービス維持して行くためには参加費についても今後検討していく必要があるだろう。他学会の大会の会場や参加費などについて、情報を集めたい。参考例があればよいとの意見があった。

11. INTECOL 報告

- ・ 中野オブザーバーより資料 9 に基づいて報告があった。日本の INTECOL 会員が 53 人のみ (INTECOL 年会費の支払いが技術的に難しいとの声もある)。
- ・ 北京大会はシンポ企画提案を 2017 年 2 月末まで受け付けているので、その旨を学会 HP に掲載する。

12. その他

＜韓国・国立生態院と京大生態研との学術交流協定 (MoU) 締結について＞

- ・ 中野オブザーバーより両機関の MoU が締結され 12/9 に生態研 7 名で韓国国立生態院を訪問。今後 HP にお互いの最新情報を載せるようにする。韓国国立生態院は研究者間の交流、学生を呼ぶ資金もあるので活用できる。素晴らしい施設で年間 100 万人の観光客が来ると報告があった。

審議事項

第 1 号議案 大会規則改正について

- ・ 大会参加費と懇親会費について決定が遅れると準備作業が進まないため、資料 10 に基づいて池田理事より提案があり全会一致で承認された。

第 2 号議案 入会・会費規則改正について

- ・ 「ER の冊子体廃止を見越して変更」・「地区会費について追記 (金額は削除)」・「所得の少ない正会員の年齢制限を撤廃のための案」として資料 11 に基づいて池田理事より提案があった。
- ・ ER は 2017 年にはまだ冊子体があり、2018 年の 1 月から一般会員への配布廃止予定。冊子購入希望者人数の把握が必要であり、販売価格や賛助会員配布用など何部か冊子を作成する場合の費用を確認したうえで改定案を作成し再度審議することになった。

第 3 号議案 日本生態学会功労賞について

- ・ 今回は功労賞なしとすることが全会一致で承認された。

第 4 号議案 委員の承認について (ER・生態誌)

- ・ 資料 2・3 に基づいて ER の新任編集委員・2017 年からの生態誌編集委員会の構成について各編集委員長から提案があり全会一致で全員承認された。

その他

1. 若手の会について

- ・ 大澤理事より、5月に若手科学者ネットワークの窓口を出してほしいとの依頼があった。生態学関連では「生態学若手の会」が解散し「若手の集い」が自主的に組織された。今後ネットワークの話が来た時に「若手の集い」情報提供することを了承してほしいとの依頼があった。「若手の集い」は学会の公式な組織ではないが、若手科学者ネットワークの窓口として機能することを期待するとの意見があった。
- ・ 中野オブザーバーより INTECOL では若手の会 (INNGE) から必ず報告がある。日本生態学会でも公式な組織として持っているのが良いのではないかとの意見があった。
- ・ 辻理事より 2年前の将来計画委員会、若手の活動支援の議論をした。将来計画委員会に検討依頼してもらおうと違った視点で協力できる。若手にアンケートをとったが「ネットワークは必要だが積極的には貢献したくない」という声があったとの意見があった。
- ・ 別宮理事より、若手科学者ネットワークの窓口をキャリア支援委員会で引き受けたが、若手のキャリア支援を考えると若手の集いと両方に情報を流すのは賛成。若手が自らやりたい企画内容、活動できるような組織があればよいのではないか、との意見があった。
- ・ 占部副会長より外国の学会では学生の理事がいる。学生理事を置いて理事会の状況をツイッターなどに流してもらおうとかもいいのではないかとの意見があった。

2. 今後の Ecological Research の運営について (次期科研費申請方針)

- ・ 久米理事より今後の ER 運営について提案があった。
- ・ ER の IF は伸び悩み (1.338)。アジアのローカルな引用されにくい論文も掲載されている。しかし、論文のレベルは維持しており、この体制を続けるのが良いのではないかというのが編集委員会の意見。

3. Gender Summit 10 at Tokyo への協賛について

- ・ 資料 13 に基づいて別宮理事より提案があった。現在、生科連と 4 団体が協賛金拠出を決定している。
- ・ ポスター発表 3 万円。協賛金と合わせて 13 万円になるが会計的に単年度であれば可能。
- ・ 国際情報発信でもあるので生態学会として積極的に出資するのが良いのではとの意見があった
- ・ キャリア支援委員がポスター発表も行う予定。内容を HP の目立つところにしてほしいとの要望があった。
- ・ 協賛金の支出が全会一致で承認された。

4. 地区会費について

- ・事務局より国際文献社へ委託で地区会費と地区還元金算出に労力がかかるようになった、この際地区会費を廃止できないかとの提案があり、総会が各地区様々だが、7月までに地区会費廃止を審議できないか各地区会長に打診することになった。

5. 学会 HP について

- ・学会 HP 更新予定のため、理事から意見を聞く時間を持った
- ・一般市民に向けてのページを作ってはどうか。一般向きのコンテンツ作成を現役を退いている方をお願いしてはどうか。
- ・アメリカ・イギリス生態学会トップページは学会の外に向けて発信している。
- ・オープンデータとして、写真のアーカイブを載せたらどうか。関連して、掲載情報の管理のあり方について議論があった。

6. 次回 2/18 (土) 早稲田大学

- ・午前中大会実行委員会、続けて理事会

閉会：以上の議事を終え、17時00分に閉会した。

上記の決議を明確にするため、会長、監事がこれに記名押印する。

平成 28年 12月 17日

会 長 : 可知 直毅 (印)

監 事 : 陶山 佳久 (印)

竹中 明夫 (印)